

## 伊能忠敬と私

### 大河ドラマ「一押しシーン」に！

戸村 茂昭

はじめに

今年、日本の領土確定に特筆すべき事績を残した伊能図が完成して二〇〇年という記念すべき年にあたるので、是非とも今年の大河ドラマに伊能忠敬を取り上げて欲しい、と数年前にたくさんの署名を集めたりしたことがある。

残念ながら、今年「渋沢栄一」の「青天を衝け」、来年は「鎌倉殿の十三人」ということで、伊能忠敬の登場はお預けとなってしまっている。そのNHKは、大河ドラマの代わりに「歴史秘話ヒストリア」で「世界を変えた地図ものがたり」という番組を先日（令和三年一月六日）放映し、「伊能図をもとにしたシーボルトの日本図が、ロシアと日本との領土の境界確定に使われた」と説明して、大河ドラマ化運動に若干ではあるが報いたようである。

本稿は、もし自分が大河ドラマをプロデュースする立場ならば、是非とも「一押しシーン」に取り上げたいと独断で考えた場面の紹介である。出典は、断らない限りDVD版『伊能忠敬測量日記』（イノペディアをつくる会）に拠っている。

#### 一・南鐮一片遺しけり

寛政十二年閏四月二十三日、第一次（蝦夷地）測量の往路で、白河城下の止宿先となった因幡

屋の主は、図らずも忠敬が隠居前に事業家として活躍した佐原で酒造していたことがある既知の人物だった。そのことから宿の主の茂兵衛とねんごろになり、酒肴を以って饗応してくれた。そこで、そのお礼に、忠敬は茂兵衛の女房に一枚の南鐮銀を宿代とは別にチップとしてさし上げた。「酒肴を以って饗応しまま女房に、南鐮一片遺しけり」と記録している。南鐮銀一枚は小判の八分の一に相当する値打ちがあったというから、現在の価値で三〜四万円ということになる。忠敬先生、よっぽどうれしかったので大枚を張り込んだようである。大河ドラマで謹厳実直な忠敬と美人女将との艶っぽいツーショット映像が流れたとしたら、視聴者の話題になるであろう。

#### 二・翌朝雲間小測

享和二年六月十一日、忠敬は第三次（出羽・越後）測量に出発した。その出発当日の止宿先である「草加宿」では、既に二次測量の際に天体観測は実施済みであるにも関わらず「此の夜曇る。翌朝雲間小測」と記録している。この、翌朝、が何時ごろかと言え、測った恒星が晩秋の夕刻に南中するペガサス座の星々（離宮四、離宮二、室宿二、室宿一、「測地度説」より）なのであるから、推歩先生（高橋至時が忠敬につけたニックネーム）の学んだ天文暦学の知見（観測した恒星が南中する時刻）によれば、翌十二日未明の午前三時頃ということになる。

まさに、伊能測量とは「昼は地を量り、夜は天を測る」という、寝る間も惜しんだ測量地の旅であったので、これまでの大河ドラマには

登場しなかった科学的な測量場面の映像になるであろう。

なお、深夜から未明になって天測したケースは、次の通り枚挙に暇がなかったのである。

#### 一次測量 寛政十二年

十月六日 吉岡「七日晨少晴測量」

十月九日 舟廻「翌十日晨測量」

#### 三次測量 享和二年

六月十四日 間々田「此夜曉に測量」

七月二十四日 能代「子午線午後に出発上がる」※その晩、80個の恒星を暮五ツから

翌日未明まで測った（「北極高度測量記」）。九月二十三日 太郎代浜「此夜曇天。曉七ツ頃。測量」

十月十七日 本庄宿「此夜曇天。雲間に漸六七星測る。九ツ頃より雨、至曉。」

#### 四次測量 享和三年

四月十六日 宮崎村「此夜曇天。十七日曉晴て測量」

#### 五次測量 文化二年・三年

五月二日 鳥羽城下「此日未明、市野、日和山にて遠山を測る。測人高橋・市野也。」

五月六日 鳥羽湊「此夜木星、四小星凌犯を測る。曉に至る。」

九月二十日 坂本村「平山・佐藤は未明に比叡山四明ヶ岳へ登りて山々を測る」

二月二十二日 宮浦「此夜曇、雲間に測量。」

十月十日 敦賀町「曉七ツ半後晴間測る」

#### 七次測量 文化七年

七月十日 山川津「木星測、曉に付一同疲れ」

七月二十六日 片浦村「此曉木星を測る」

八月二日 上甕島里村「此夜木星と二小星凌  
犯あり。(中略) 曉迄測」

### 三、夢に堀田侯に謁す

三次測量の享和二年七月二十六日、能  
代において「予二十五日より病氣、此夜  
夢に堀田侯に謁す」とある。

堀田侯とは堀田摂津守正敦で、寛政二  
年から天保三年までの四十二年間という  
長期にわたって若年寄を務め、伊能測量  
を幕府の中樞で支えた人物である。出自  
が仙台藩伊達家で、忠敬の妻お信の父で  
ある仙台藩藩医の桑原隆朝とも親しい間  
柄ということから、忠敬の後ろ盾でもあ  
ったのであろう。このような文部科学省  
的な江戸幕府の政治の場面を、大河ドラ  
マを介して視聴者に紹介できる筈である。

### 四、芭蕉塚発見

『測量日記』は、測量の業務日誌であるから、  
基本的には測量に無関係な私的なことは書か  
ないのであるが、なぜか測量業務には関係なさ  
そうな芭蕉塚を発見したことが、七次測量と八  
次測量では記録されている。現在でも残ってい  
るその句碑の前に佇む忠敬の映像は、大河ド  
ラマ映像として絵になるだろう。

### ・七次測量

文化六年十一月十二日 明石市柿本神社

蝸壺やはかなき夢を夏の月 笈の小文収録

### ・八次測量

文化九年九月二十六日 (支隊)

梅が香にのつと日の出る山路かな 炭俵収録  
文化九年九月二十七日

世の人の見つけぬ花や軒の粟 奥の細道収録

文化九年九月二十九日 (支隊)

川上とこの川下や月の友 続猿蓑収録

文化九年十月五日 (支隊)

月影や四門四宗もただひとつ 更科紀行収録

文化十年九月十六日

目にかかる雲やしばしの渡鳥 渡鳥集収録

文化十年十二月八日 (支隊)

さまざまのこ思い出すさくらかな

文化十年十二月廿日

梅が香にのつと日の出る山路かな 炭俵収録

文化十一年三月十三日 (支隊) 真言宗相染院

境内に芭蕉塚というあり

文化十一年四月二十六日

霧時雨富士を見ぬ日の面白き 野ざらし紀行

文化十一年四月二十九日 姥捨山

おもかげや姨ひとりなく月の友

### 五、富士を測る

・本州最北東端 三次測量の享和二年六月二十  
日、上野国越堀宿く芦野宿間栢平(富士見峠)

から測量。(「山嶋方位記」第二卷)  
「越堀宿・芦野宿之間栢平二而測ル。

一、富士山 未〇六分十〇秒

一、筑波山 男躰 午〇七分三十秒  
女躰 午〇四分十五秒

### ・本州最東端 二次測

量の享和元年七月二  
十六日、下総国銚子  
湊(千葉県銚子市)。

「此早朝、日出に  
犬若岬において

慶助、富士山を

測。着後十九日よ

り富士山の方位

を測らんと日々手分し、高きに升り遠  
へ出しけれど、日々蒙氣おおくして見  
えざりき、此朝、富士山を測得たり。そ  
のよるこび知るべし。(予が病氣も最早  
全快に及べり。)(申一九分二五秒)「

何故、病氣が全快するほど、喜んだの  
であろうか? 銚子市にある記念碑の文  
言に依れば「忠敬はこの地で伊能

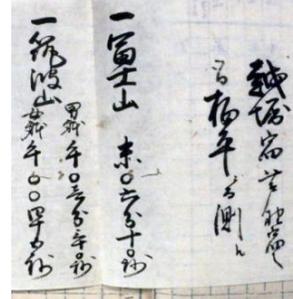
測量の方法による測量の精度を確

定した。この碑は、測量の精度を確

定した。この碑は、測量の精度を確



芭蕉翁面影塚(長野県千曲市)



認できたから・・・」としているが、筆者の見解はこれとは若干ながら異なる。実は、この地に至るまで導線法と天体観測による測量はできたのであるが、今一つの「交会法」による測量の目標とする高山や島影がこの房総半島の外房には一切ないことから、関東最東端にあたるであろうこの地を地図の上で矛盾なく描けるか心配だったのであらうと考えられるのである。このような具体的な心配事がこの地での富士山測量で払拭できることになったので、持病が全快するほどの喜びとなったのである。うのと考えるのが妥

るの



令和元年建立の記念碑（志摩市）



伊能忠敬銚子測量記念碑（銚子市）

当と思うのである。  
 ・本州最西南端 五次測量の文化二年五月二十日、志摩国国府村海岸（三重県志摩市）。  
 「朝晴天、六ツ頃国府村海岸に出て富士山を測る。（丑二五分五〇秒より丑二六分）」

このように富士山の方位を東西南北の遠方から測っていることが、国絵図ではあり得ない伊能図の特徴で、大河ドラマにすることによって、地方の町おこしにも貢献できるであろう。

六、後世永々英名を御残し候事この時に候て四次測量、享和三年九月二十二日、いわゆる糸魚川事件にあたり、長岡城下で受け取った、師匠高橋至時からの親身なる書簡の一節である。

「（上略）元来御存知の事にて申迄は無之候えども、即今、天下の曆学者各眼を拭い、足下の地図成就の期を、日を算え待候事にて、後世永々英名を御残し候事此時に候て、又是を以、世上曆家の机上腐臭の故態を破し、精密の一家堅く相建候も 今の時にて、実に足下の一身、天下曆学の盛衰に係ると可申候。加程の大事業の將に成んとするの間、一小事にて万々一中絶に成候はば、何程の残念と思召候哉。（下略）」  
 まさに名文である。病床にありながら、『ラランデ曆書管見』を執筆中の高橋先生の息使いとともに、弟子である忠敬への愛情がほとばしっており、ドラマの最大の見せ場になることである。

七、地図を精敷認候術は

「第一次測量幕府折衝編」寛政十二年閏四月五日の条に、忠敬は次のように記している。

「（上略）松平信濃守様より我等蝦夷御用之御沙汰猶御尋之儀有之候由に付、為御使、渡辺清蔵殿態々御遺し被下御尋に付、左に書付差上候。（中略）」

地図を精敷認候術は、第一は北極出地度、其次は方位に御座候。（下略）」

この書きつけこそ、伊能測量を実現させることに成功した忠敬自身のプレゼンテーションであるから、大河ドラマでは重要な場面になるであろう。

おわりに

このように、伊能測量には、これまでの覇権争いが中心の大河ドラマとは一線を画して、江戸時代という、科学立国日本の黎明期における興味の尽きないドラマが満載であるのだから、大河ドラマにすれば、地上の星」という歌で一世を風靡したあの「プロジェクトX」という番組のように、視聴者に自信を与えることが出来る番組にすることが出来るであろう。

是非、小生の目の黒いうちに、伊能測量が大河ドラマに登場して欲しいとあらためて願うものである。（了）